

キラキラ通信



郡山支援学校 地域支援部だより 第4号 平成29年12月20日（水）発行

キラキラ保護者教室を実施しました

キラキラ保護者教室の3回目、4回目、5回目について、ご報告します。

3回目は9月6日、「どうしていますか？ おうちのこと、学校のこと～先輩お母さんとお話会」と題して、小学部と中学部から一人ずつのお母さんにご協力をいただいて開催しました。家庭や学校のことだけでなく、子どもとどう向き合うかという話題や地域資源の情報交換まで、幅広い話題で和気あいあいとお話会が行われました。

4回目は11月17日、「気持ちがいいね リラックスリラックス～親子でのびのび 気持ちよ～くストレッチ」と題して、身体の使い方や緊張のほぐし方を体験してもらいました。

5回目は12月7日、「子どもも大人もスイッチオン！ ～さわって、動かして、タブレット」と題し、様々なニーズに応じたAT機器の活用について紹介し、実際に体験してもらいました。

今年度予定していた5回の「キラキラ保護者教室」は、いずれも参加した方々から好評をいただき、無事終了となりました。ご協力ありがとうございました。

就学について地域のどこに相談すれば？

子どものことで悩んだとき、どうしてます？



上手だね。気持ちいいね。



タッチ！あっ、動いたよ。



シリーズ 支援の視点③ 「自己肯定感」

「自己肯定感」という言葉を耳にしたことはありませんか？

自己肯定感とは「自己を肯定する感覚」、つまり「自分は大切な存在だ」と感じる感情のことであり「子どもが自分の存在価値を肯定できる」力のことです。実は、この「自己肯定感」こそが、子どもの「生きる力」の根底となっています。

子どもたちは、苦手な事柄を自分の努力不足や障がいのせいと誤解しがちです。そのため、課題等に失敗すると「どうせ…」と自己不全と自己否定に陥りがちです。思春期になると、自分を否定する感情がなお一層強くなり、ますます劣等感に悩むことになるのです。

「褒めて育てる」という言葉があります。ある調査によると、「やる気になるのは褒められたときですか、それとも叱られたときですか」という質問に、9割以上の方が「褒められたときのほうが俄然やる気が出る」と答えたそうです。また、自己肯定感の高い人は壁に当たったり自信を失いかけていたりしても、そこから回復する力も高いとも言われています。この自己肯定感は、周囲に認められることで高まっていくものであり、子どもの周囲の親や教師がそれを担うことが多いのです。

そのためには「子どもの長所を認めてあげること」から始めてみましょう。子どもは長所をよりどころに自信を持ち、なお一層興味関心を伸ばして自信をつけていきます。その中から「自分は大切な存在だ」「自分にもできるんだ」と自己肯定感も育っていきます。得意なところを伸ばすことで、苦手な部分も少しずつ底上げできるのです。